

# 第64回青森県水産振興審議会

## 議 事 録

水 産 振 興 課

発言者	議 事 内 容
(司 会)	<p>審議会の開催に先立ちまして、本日、皆様のお手元にお配りしております資料等の確認をお願いいたします。</p> <p>まず、次第でございます。これは4枚綴りになってございます。2枚目が委員の出欠を記載しました名簿、3枚目は県の機関の出席者の名簿となっております。そして4枚目が席図となっております。次は報告事項に係る資料でございますけれども、資料1といたしまして、「第63回青森県水産振興審議会の主な意見と対応について」でございます。資料2といたしまして、「平成26年度主要事業の取組結果について」でございます。それから審議事項になりますが、審議事項に係る資料といたしまして、右肩に資料3と書いてございます「浜の活力再生プラン取組概要」でございます。それから資料4といたしまして、「平成27年度主要事業の取組について」でございます。これらに加えまして、皆様のお手元には本日の参考といたしまして「青森県の水産業」、それから「未来につなぐ資源管理2015」をお配りしてございますが、委員の皆様、資料の不足はございませんでしょうか。</p> <p>不足があれば事務局までお申し出ください。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それからもう1つ、皆様のお手元の方にウチワを御用意させていただきました。このウチワ、今、県といたしまして本県の特産水産物のPRを行っておりまして、今回、ねぶた祭りに観光客の皆様にお配りする予定のウチワでございます。その他に鈴もございまして、ちょっと音がするものですから皆様のお手元に置いてございませんけれども、入口の方に、箱にこういう鈴を作成してございます。こちらは審議会終了後にお持ち帰りいただければと思います。</p> <p>それでは定刻になりましたので、ただ今より第64回青森県水産振興審議会を開催いたします。</p> <p>申し遅れましたが、私は本日の進行役を務めさせていただきます水産振興課の松坂と申します。どうぞ、よろしくをお願いいたします。</p> <p>本日の席順でございますが、五十音順に設定させていただいておりますので、予め御了承願います。</p> <p>審議に入ります前に、本審議会は定数18名のうち、本日は14名の御出席をいただいております。過半数を超えておりますので、青森県附属機関に関する条例第6条により本審議会は成立していることを御報告申し上げます。また、昨年まで青森県漁協女</p>

発言者	議 事 内 容
(青山副知事)	<p>性組織協議会の会長として本審議会の委員でございました熊谷ヒサ子さんがお亡くなりになりました。熊谷さんが亡くなられたということで、その後任として現在同協議会の会長であります佐藤久美子さんに委員となっていてございます。どうぞ本日はよろしく願いいたします。</p> <p>それでは開会にあたりまして、知事より御挨拶を申し上げます。青山副知事、よろしく願いいたします。</p> <p>皆様、こんにちは。私は副知事の青山といたします。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日、三村知事、公務が重なり出席できません。知事から開会にあたりましての挨拶をあずかってまいりましたので、代読させていただきます。</p> <p>「本日はお忙しい中、第64回青森県水産振興審議会に御出席をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>委員の皆様には日頃から県政全般にわたって格別の御理解と御協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。</p> <p>また、昨年11月に御逝去されました元当審議会委員の故熊谷ヒサ子氏におかれまして、本県水産業の発展に大きく貢献されました。改めて故人の御功績を偲び、深く追悼の意を表します。</p> <p>さて、本県の水産業を取り巻く環境は就業者の減少や高齢化に加え、漁獲量の減少や夏季の高水温など、漁業環境の変動、さらには魚価の低迷、漁業用資材価格の高止まり等により依然として厳しい状況にあります。また、本県沿岸のクロマグロは国際的な資源管理のため漁獲量が制限された状態となっており、漁業経営への影響が懸念されているところです。今後の対策につきましては、先日も実施いたしました、漁業関係者と一体となって水産庁への情報活動を強めて参ります。こうした中、県内各地の漁業者におかれましては、5年間で1割以上の所得向上を目標とする「浜の活力再生プラン」を策定し、プランに基づく課題解決への取組を実践されていると伺っております。地域の実情に即したそれぞれの取組が、水産業の持続的な発展と活力ある漁村づくりに寄与することを期待しております。</p> <p>県においても、こうした漁業者の取組への支援のほか、資源管理型漁業やつくり育てる漁業の推進、本県水産物の販路の拡大、安心・安全な水産物の安定供給などを進めております。具体的に</p>

発言者	議 事 内 容
(司 会)	<p>は、今年度末に予定されております北海道新幹線の開業に合わせた奥津軽の海藻類のPRや磯の資源の増殖の場となる藻場づくりの推進、さらには八戸前沖サバのブランド力の向上などに取り組んでいるところです。引き続き皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、浜の活力再生に向けて、平成27年度の主要事業の取組について御審議いただくこととしております。委員、それぞれのお立場から、現在県が進めております主要施策はもちろんのこと、新たな施策の展開に向けて忌憚のない御意見を賜われますようお願いいたします。</p> <p>結びに、御参会の皆様の御健勝と益々の御活躍をお祈りし、御挨拶といたします。</p> <p>平成27年7月31日 青森県知事 三村申吾 代読</p> <p>本日はよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>青山副知事は次の業務がございますので、ここで退席させていただきます。</p> <p>それでは本日の審議会の進め方について御説明させていただきます。まず最初に次第にあります2項目の報告事項を事務局から説明させていただきます。次に審議事項に移りますが、テーマとして「浜の活力再生に向けて」として、平成27年度の主要事業等の説明の後に委員の皆様から御意見をちょうだいするという手順で進めさせていただきます。</p> <p>なお、終了は午後3時を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以降の進行につきましては、青森県附属機関に関する条例第6条に基づきまして、会長に議長をお願いいたします。</p> <p>それでは西崎会長、よろしくお願いいたします。</p>
(西崎会長)	<p>それでは皆様の協力をいただいて、暫時の間、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは案件に移らせていただきます。委員の皆様におかれましては、事前に資料をお渡ししておりますので読んでいただいているものと思います。従って、事務局からの説明は簡潔にお願いします。</p>

発言者	議 事 内 容
(水産振興課)	<p>それでは資料1の説明をお願いします。</p> <p>水産振興課長の野呂と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それではまず私から、「第63回青森県水産振興審議会の主な意見と対応について」説明させていただきます。着席して説明いたします。</p> <p>資料1の1ページ目をお開きください。</p> <p>上段の「水産物のPR、おさかな自慢について」の対応ですが、県では、本県水産物の消費拡大を図るため、本県の地域特産物のエピソード等に関するデータベースや冊子等を活用して、産地から自主自立した水産物の自慢情報の発信やPR活動を行いました。</p> <p>具体的には、おさかな自慢応援隊による誘客支援、おさかなキッズの育成及び地域特産水産物の情報収集、「おさかな自慢」の発行を行いました。</p> <p>続きましては総合販売戦略課から説明いたします。</p>
(総合販売戦略課)	<p>総合販売戦略課長の西村と申します。座って御説明をいたします。</p> <p>1ページ目の下段でございます、「水産加工品開発に向けた取組について」、県の対応を申し上げます。県では、県内の農林水産物を活用いたしまして付加価値の高い商品づくりに取り組む事業者を対象に、毎月、県内7会場におきまして「あおり食品ビジネスチャレンジ相談会」、通称我々はABC相談会と申し上げておりますけれども、そういった相談会を開催しているところでございます。当相談会におきましては、専門家も交えましてパッケージ・デザインも含めました加工品開発の具体的なアドバイスや支援制度の情報提供を行っているところです。また、今年度におきましては、水産加工業者の支援を強化するために、6月から八戸市の食品総合研究所におきましても相談会を開催しているところです。</p> <p>この他に水産加工業者を対象と致しまして、未利用・低利用の魚種や部位を活用した加工品開発に関係いたします経費を助成しているというような取組を行っております。</p> <p>2ページ目につきましては、今、申し上げましたABC相談会の概要を載せておりますので、後でお目通しのほどをよろしくお願ひいたします。</p>

発言者	議 事 内 容
(西崎会長)	<p>以上です。</p> <p>ただ今、資料1について説明が終了しましたが、資料2の説明が終ってから皆様からの御意見をちょうだいしたいと思います。</p> <p>それでは資料2について説明をお願いします。</p>
(水産振興課)	<p>「平成26年度主要事業の取組結果について」、資料2の1ページ目をお開きください。</p> <p>平成26年度に取り組んだ重点事業については、26年度で終了となった事業を水色、また26年度から開始となっている事業を緑色で区別しております。また海域ごとに区域の取組が分かるように配置しております。</p> <p>次に2ページ目をお開きください。まず26年度の終了事業の主な結果について説明をいたします。26年度終了事業の取組結果を1枚にまとめております。このうち右上の「夏の陸奥湾活ほたてがい提供促進事業」では、機器分析法を用いて123検体の基礎データを蓄積いたしました。また貝毒プランクトンの発生状況と海水温から毒化リスクを評価できることが判明いたしました。これに関連して今年の3月からは陸奥湾の貝毒検査は機器分析に移行しております。</p> <p>また、左下の「しじみ資源の増大による小川原湖水質改善事業」では、しじみのろ過能力による水質改善効果を明らかにして、大型稚貝の生産・放流をいたしました。また、2～5mmサイズの稚貝の湖水かけ流しによる粗放飼育試験を実施いたしました。</p> <p>それでは3ページ目をお開きください。3ページからは、26年度から開始した事業の主な成果について御説明をいたします。まず、「青森の豊かな海が創る「おさかな自慢」PR推進事業」です。主な成果は、1つ目は、4県民局ごとに組織された36名の「おさかな自慢応援隊」とともに、料理教室の開催やPR活動などを行いました。2つ目は、おさかなキッズ育成では、234名のおさかなキッズが勉強会や料理教室などにより水産物への理解を深めました。3つ目は、地域特産水産物情報収集・発信では、20魚種について情報を取りまとめました。</p> <p>次に4ページをお開きください。「元気な浜の未来構築事業」です。主な成果は、1つ目は、28名の浜のマネージャーを認定いたしました。2つ目は、地域実践実習、具体的には中泊町の活ハマクラブによる活ハマまつり、メバルの網外し体験ツアーのほか、</p>

発言者	議 事 内 容
(総合販売戦略課)	<p>試食会、直売等を実施いたしました。また、活動フォローアップとして地引き網、ウニの移植、ホタテガイの販売促進活動などを支援いたしました。</p> <p>次に5ページ目をお開きください。「特産水産物がリードする豊かな海づくり事業」であります。主な成果のうち、3つ目のミズダコの行動を利用した改良籠による資源回復対策では、実証試験をした結果、改良籠では体重3kg未満の小型個体の漁獲割合が低下しております。</p> <p>それから少し飛びますけれども、8ページ目をお開きください。「かさまい下北海の幸づくり推進事業」です。主な成果は、1つ目の外海域でのホヤ養殖実証試験及び加工品開発では、大畑、蛇浦、佐井の3地区においてホヤの養殖実証試験を実施し、ホヤの成育状況、施設の耐久性を把握するとともに、ホヤを主原料とする3品目の加工品を開発いたしました。</p> <p>次に9ページ目をお開きください。「船上からつなぐ下北水産物高品質化推進事業」です。主な成果は、生きたまま大量に漁獲・運搬されるマダラについては、流通する早い段階に活締め処理をするほど、白子などを含む内蔵の白色度、綺麗度が増して、活締めのタイミングで鮮度に影響が出ることが分かりました。また、下北ブランド研究所では、比較的安価な成熟マダラ卵や身の部分を利用して、冷凍保管しても高品質保持できる「漬け」や「昆布締め製品」の加工品を開発いたしました。</p> <p>続いて総合販売戦略課が説明をいたします。</p> <p>当課の事業、10ページ目を御覧ください。「水産加工原料安定化緊急対策事業」でございます。この事業は、これまで活用されてこなかった未、あるいは低利用魚種、そしてまた部位等を加工原料といたしまして、新たに有効活用するということにより水産加工業者等の経営安定を図っていくというものでございます。</p> <p>主な成果といたしましては、ヒラメの卵を塩漬けし、長期熟成を行ったヒラメのからすみ「ひらめっ仔物語」や高鮮度処理したイカの肝臓を凍結した「活いかレバ刺し」、足や耳などの端材を使用した「いかめんち」のほか、茎ワカメをリンゴ酢で調理いたしました「リンゴ酢茎ワカメ」などの開発を支援してきたところでございます。</p> <p>それでは11ページをお開きください。11ページの「物流関連企業と連携した県産農林水産物販路拡大事業」についてです。</p>

発言者	議 事 内 容
(漁港漁場整備課)	<p>この事業におきましては、物流関連企業と連携しまして航空輸送を活用した高鮮度水産物の販路開拓に取り組むというものでございまして、主な成果といたしましては、活アワビなどの14種の水産物を提供した結果、無添加生ウニやサクラマスに対する評価が非常に高かったということで、5店舗で通常取り引きにつながっているというところでございます。</p> <p>また、通常取り引きというところまでは至りませんでしたけれども、活アワビなどにつきましては今後の取り引きが期待されるというところになっております。</p> <p>続いては漁港漁場整備課から説明いたします。</p> <p>漁港漁場整備課長の山田です。12ページを御覧ください。</p> <p>この12ページは、昨年度実施しました漁港漁場整備の位置図でございます。まず○が漁港の総合整備でございまして、6地区において実施しております。◇が漁場整備で10地区、29漁場において実施しております。また、この位置図には示しておりませんが、この他に漁港施設の一部を対象としまして、機能を保全します老朽化対策として21漁場、また地震・津波や高潮に対する機能強化対策として19漁港で実施しております。</p> <p>13ページを御覧ください。漁港の整備の事例でございます。まず左上でございますが、航路や港内の静穏を向上させるための防波堤の整備状況、あるいは、その下にありますけれども、陸揚げされた水産物をいち早く市場に届けるための臨港道路などを整備している状況で、これにより産地競争力を高めることとしております。</p> <p>右上ですけれども、八戸漁港の状況でございますが、密閉型の荷捌き施設B棟の事例でございます。この施設は大型中型イカ釣り漁船を対象としておりまして、水産物の陸揚げから出荷まで、一貫した衛生管理対策を行うこととしております。</p> <p>下は沿岸に人工リーフの整備をしまして、漁村の防災対策を行う取組でございます。</p> <p>続きまして14ページを御覧ください。漁場整備の具体的な内容でございます。まず左上でございますけれども、陸奥湾沿岸においてカレイ、メバル、ナマコの育成場を造り、多様な魚種との複合経営による漁業収入の安定を図る取組でございます。</p> <p>右上でございますが、太平洋から津軽海峡沿岸においてコンブ藻場の造成や魚礁の設置を進めています。整備後にはコンブが繁</p>



発言者	議 事 内 容
(西崎会長)	<p>茂し、インダイやカンパチなどの幼魚やアワビの生息が確認されており、資源回復が進んでおります。</p> <p>最後に下の部分でございますけれども、日本海沿岸においてハタハタの産卵場やウスメバル稚魚の育成場としてのホンダワラ藻場の造成と成魚を集めて漁獲するための魚礁の整備を進めております。ホンダワラなどの海藻が生い茂り、整備後でございますけれども、ハタハタの産卵、メバルの稚魚が集まっている様子が確認されており、資源の増大につながっているものと考えております。</p> <p>以上でございます。</p> <p>それでは報告事項、資料1及び資料2について説明が終了しました。委員の皆さんから何か御意見等、ございませんでしょうか。</p> <p>ないでしょうか。なければ御了承いただいたものとして次に進みたいと思いますが、よろしゅうございますか。</p> <p>どうもありがとうございます。それでは審議事項に入ります。本日は、「浜の活力再生に向けて」をテーマとして、委員の皆様から意見交換をしますが、その参考として平成27年度事業の取組について紹介をし、まずその資料3の説明をお願いします。</p>
(水産振興課)	<p>資料の3をお開きください。資料の3で「浜の活力再生プラン」取組概要について説明をいたします。</p> <p>この「浜の活力再生プラン」についての経緯ですけれども、国による漁業者の収入増加と経費削減の取組により5年間で所得を1割以上向上させることを目標とした「浜の活力再生プラン」の策定に伴い、県内ではここに示されました33の地域水産業再生委員会が組織され、26年度末までには全ての再生委員会のプランが国の承認を受けています。</p> <p>このうち、右側の備考欄、ここに示された尻屋、むつ市大畑地区、佐井地区、脇野沢、平内町、青森市、蟹田・平舘、小泊、深浦町北金ヶ沢の6つの再生委員会では、ここに示した県の補助事業を活用して取組を実施しております。</p> <p>それぞれの取組内容については、上の方にある項目と○で確認をいただきたいと思っております。</p> <p>続きまして資料の4、「平成27年度主要事業の取組について」であります。資料4の1、2ページをお開きください。1ページ、2ページ目には水産局の主な事業の施策体系で、平成26年から</p>

発言者	議 事 内 容
(総合販売戦略課)	<p>の開始事業は緑色、今年度からの開始事業は黄色で表記しております。</p> <p>次に3ページ目をお開きください。3ページ目には今年度取り組んでいる事業を年度別、海域ごとに配置しております。それでは年度別に説明をいたします。4ページをお開きください。</p> <p>26年度開始事業についてです。今年度の取組については先ほど説明をした内容と多くの部分が重複しておりますので、説明は割愛させていただきます。</p> <p>続いて総合販売戦略課から説明をいたします。</p> <p>当課所管の事業につきまして、5ページ目でございます。5ページ目の左側につきましては、先ほど御説明いたしましたとおりでございますので割愛いたします。右側の物流関連企業と連携した事業につきましても、2年度目ということがございますが、今年につきましては新たに中部以西の取り引きと新規事業の可能性を周知していくというようなこともございまして、セミナーの開催や希望者を対象といたしましたマッチング相談会を開催していくということで、事業強化を図っているところでございます。</p> <p>なお、今年度の取組におきまして、1回目のテスト輸送につきましては6月30日に、今年度から実施されております青森県総合流通プラットフォーム、通称 A!Premium、この輸送サービスを活用いたしましてサンプル提供を行ったというところになっております。</p> <p>また再び水産振興課に戻します。</p>
(水産振興課)	<p>それでは次に7ページをお開きください。「あかいか漁場予測システム実用化支援事業」です。</p> <p>この事業については、ちょっと下の図を見ていただくとよろしいかと思えます。中型いか釣り船、これは八戸と大畑に所属する約30隻の船が北太平洋とか本県の三陸沖に出漁して、アカイカと呼ばれるスルメイカよりもちょっと大きいイカを獲るということを、ここに書いています人工衛星を使って、どの辺にイカがいるかということのを予測して船にお知らせをして、そしてその船がそれを使ってまたそのデータを基に皆さんが探すシステムであります。</p> <p>このシステムの事業の目的については、国が開発した探索モデルを活用して、本県独自のアカイカ漁場予測システムの実用化と</p>

発言者	議 事 内 容
	<p>将来の運用体制を構築するというところであります。今年度の取組は予測結果をリアルタイムで集配信する専用システムの開発、操業データを活用したシステムの検証及び情報配信、そしてその運用体制の検討を行います。</p> <p>次、8ページをお開きください。「八戸前沖さばブランド力向上復興促進事業」であります。皆さん、御存じのように、八戸前沖さば、かなり知名度が上がってきました。この事業は平成29年度までの3か年の事業であります。</p> <p>目的としては、サバの種類、八戸前沖さばはマサバとゴマサバの2つがあります。このサバの種類、それから粗脂肪を選別できる技術の開発と実用化を行います。今年度の取組は技術開発方針等の検討と、マサバ・ゴマサバといったサバの種類別及び粗脂肪別の選別技術の開発を行います。</p> <p>次に9ページをお開きください。次は陸奥湾での取組であります。「ほたてがい養殖の総合的な養殖施設への付着生物軽減対策事業」です。</p> <p>目的は、陸奥湾のホタテガイ養殖における総合的な付着軽減の確立と普及啓発です。今年度の取組は、試験養殖資材の使用による生物付着防止効果を把握するため、養殖実証試験を陸奥湾内6か所で実施するほか、湾内17か所において付着生物の浮遊幼生、プランクトンですが、プランクトンの発生状況の把握を行います。また、籠替え、養殖籠の入れ替えの時期です、籠替え及び施設水深の調整や籠洗浄も含めた総合的な付着軽減対策のマニュアルを作るほか、付着軽減のための養殖工程の検討と巡回指導によるこれらの普及啓発に取り組みます。</p> <p>次に10ページをお開きください。「奥津軽いまべつの海藻資源で健康・長寿なまちづくり事業」です。</p> <p>目的は、海藻加工技術の伝承及び海藻製品の販売促進による今別地域における海藻漁業の経営の安定化と北海道新幹線の開業に合わせた奥津軽いまべつの海藻及び海藻食のPRによる海藻の消費拡大、健康的な海藻食の普及であります。今年度の取組は、今別地域の藻類調査、灰干ワカメなど、海藻加工品の試作と製造マニュアルの作成、そして奥津軽いまべつの海藻食の調査及び情報発信を行います。</p> <p>次に11ページをお開きください。11ページは「しじみ・ひめます産地力アップ対策事業」です。</p> <p>目的は、小川原湖での総合的なシジミ漁場管理技術の確立と十</p>

発言者	議 事 内 容
(漁港漁場整備課)	<p>和田湖での高品質なヒメマスの供給体制の確立です。今年度の取組は、シジミでは淡水藻類の繁茂、シジミへい死の実態を把握するとともに、除去藻類の堆肥利用を検討いたします。ヒメマスでは漁法転換に向けたヒメマスの移動回遊等の解明、品質保持技術の確立、加工品開発などを行います。</p> <p>以上で今年度の主な事業を説明いたしました。この他にも先ほどお話がありましたマグロの資源管理について、これは国が示した小型個体の半減ということで、漁業者の方は非常に厳しい資源管理を強いられていますけれども、これらについても県として漁業者と一緒に取り組んで参っております。</p> <p>以上で水産振興課からの説明を終わります。</p> <p>続きまして漁港漁場整備課です。12ページをお開きください。「豊かな生態系を育む藻場の元気復活事業」です。</p> <p>この事業の目的は、稚魚の保護・育成場や磯根資源の増殖の場となる藻場の維持・回復に向けて、県がこれまで整備した増殖場の維持・回復技術の確立・普及でございます。今年度の取組としましては、日本海、津軽海峡、太平洋の3海域を対象としまして海藻類の生育状況等を調査いたします。その上で、その結果を基に各海域の特性に合わせた技術を検討しまして、モデル3地区におきまして雑海藻の除去、食害生物の駆除等の実証試験を実施しまして、海藻類の生育効果、あるいはコスト等を検証していくこととしております。</p> <p>続きまして13ページを御覧ください。今年度の漁港整備の位置図でございます。これは先ほど申し上げたものとほぼ同様でございます。詳細は割愛しますが、まず漁港の総合整備におきましては6地区で整備することとしております。また漁場整備においては9地区、28漁場で実施することとしております。</p> <p>続きまして14ページをお開きください。「山・川・海をつなぐ「水循環システム」の再生・保全」でございます。</p> <p>ホンダワラやコンブの藻場造りなどによりまして水産生物の生育環境づくりに加えまして水域の浄化機能を向上させ、安全・安心な水資源の確保を図っていくこととしております。</p> <p>続いて15ページをお開きください。漁港整備の事例でございます。左上は荷捌き所前面の岸壁において防雪・防暑対策としての屋根を整備している状況でございます。また、その下は今年度から大畑漁港で整備を開始します荷捌き施設、それから岸壁前の</p>

発言者	議 事 内 容
	<p>屋根整備ということを取り組むこととしております。</p> <p>真ん中を御覧ください。防波堤の嵩上げによりまして、港内の静穏確保によりまして漁船の操船や係留の安全を図るものでございます。</p> <p>一番右側でございますが、岸壁の強化と地盤改良によります液状化を防止する岸壁の耐震強化の事例でございます。</p> <p>最後に16ページを御覧ください。「豊かな水産資源を育む豊饒の海づくりの推進」です。</p> <p>左上です。ウスメバルやハタハタなどを対象としまして、魚類の成長に伴い生息場所を移動する習性に対応して、藻場礁、増殖礁、高層魚礁の一体的な整備を県内6地区で取り組んでいくこととしております。</p> <p>右側を御覧ください。下北地域のコンブ増殖場では異常繁殖したウニを震災で半減した三八地域のウニ増殖場に移植放流するもので、昨年度から取り組んでおりますが、最近調査したところによりますとウニが順調に生育しており、資源の回復が見込まれているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p> <p>(西崎会長) それでは審議事項の①、②について説明が終わりました。ただ今の説明を参考にして、また浜の活力再生に向けて、委員の皆さんから御質問を頂戴することになりますけれども、我々、水産に対して日頃考えていること、審議事項にとらわれず、御意見を頂戴したいと思います。</p> <p>それでは大変恐縮ではありますけれども、名簿順にお願いします。</p> <p>赤石委員、よろしくお願いします。</p> <p>(赤石委員) あまり有り過ぎるから、資源管理には御協力をするというところでございます。よろしくお願いします。</p> <p>(西崎会長) それしかないんですか、いっぱいあるでしょう？</p> <p>(赤石委員) いっぱい有り過ぎる。</p> <p>(西崎会長) じゃあ、後でまたお願いします。</p> <p>それでは小野委員さん。</p>

発言者	議 事 内 容
(小野委員)	<p>中泊の小野ですけれども。うちの方も小泊に下前漁協がありますので、前は田んぼしかなかったんですが、うちの方は今、そういう具合でいろんなことをやろうとしております。合併ちょうど10年にもなりましたし、やりたいものがいっぱい出てきております。</p> <p>と申しますのは、農業は農業で今まで我々はやりました。どちらも後継者はないのですが、ここへきて小泊の方で、さっきの説明の中にもありましたが、中泊町では若い連中、28名が活ハマクラブというものを創りまして、今は大変頑張っております。もう既に昨年第1回目の活浜祭りということでやってございます。その中のメンバーは、やはり漁師さんの若い連中と、そして漁協の若い職員の方々、そしてまたうちの役場の若い連中ということで、28名の方が集まって、今、頑張っております。ただ、昨年第1回目でありましたのであれですが、それにしても東京とか函館、あっちの方にいろいろと売りに行っております。ただ、メインになるものは、今は1つしか分かりません。ノシイカですか、イカそのものを持って現場でノシて、皆さんに売っていると、そういう具合でございます。</p> <p>ただ、この若い連中は、それぞれやる気がございまして、私ども、今までは県のお世話になっていろいろとやっている。ただ、私どもも、ずっと前は漁協さんでいろいろやったんだそうです。今現在は漁協そのものが漁がないとか、いろんなことで寂れている状態でございます。小泊漁協と下前漁協を合わせても、前は16億から20億近くの水揚げがあった、今は両方合わせて4億か5億しかないんだそうです。それで経営が成り立たなくなってきているということで、今、漁師の方々が離れていると、そういう状況でございます。そこでこの若い人方が出てきたので、町でも少しでも補助をしながら元気付けていい方法をやろうじゃないかということで、今、やっております。今年も第2回目の活ハマ祭りを行うのでございますが、なにせその連中は何もないので、できれば小泊支所の隣の空いている倉庫を我々は貸してあげたいと、そして電気とか冷蔵庫を置きながら、その若い連中を応援したいということでやっていこうかと思っております。</p> <p>それにしても、県内でもあちこちで、イカの沖漬けとか、いろいろなものやっております。それもうちの方の若い連中もぜひやりたいとか、そういう具合でございますので、我々もそれに向けて頑張ってもらいたいと、そういうことでやっております。さ</p>

発言者	議 事 内 容
	<p>っそく県の事業にのりまして大変ありがとうございます。やる気でおりますので、ひとつ、よろしくお願いをしたいと。</p> <p>ただ、うちの方で今、良いとすれば7月の3日から売り出したメバル膳でございます。もう一番最初に深浦の方でマグロをやったと、そして今度は平内の方でホタテをやったと。そしてうちの方は7月3日からメバル膳をやったと。そうしましたら、意外にも反響がございまして、7月3日から30日の昼までかかって3千食売れたということでございます。ただメバルそのものが今は最中獲れておりますが、これからが大変ですので、その確保のために我々も、どうして、どうやればいいのか、協力をしなければと、そう思っております。でも、いいのはこれだけです。農業もダメです。漁業はもっとダメです。</p> <p>そういうことでマグロの話をするれば、ここにおります会長がどうのこうのと言いますので、マグロはあのように新聞に載っておりますので、我々も大変ですので、そっちの方でもできるだけ、議長、よろしくお願いをしたい。もちろん、ここに赤石会長もおりますので、会長さん、よろしくお願いをしたい。向こうにお願いをするのではなくて連合会の方にお願いします。</p> <p>ただ、国の方では親分が替わったような話ですので、後でお聴きしたいと、そう思っております。うちの方はそういう具合でございますので、県の方のこれからの御支援をよろしくお願いをしたい。</p> <p>以上です。</p>
(西崎会長)	<p>ただ今、小野さんの御意見等については、改めて県から後で総括をしてお願いします。</p>
(加藤委員)	<p>それでは消費者の立場から、どうぞ、加藤委員さん、お願いします。</p> <p>今、お話にもあったように、水産業も勿論、大変なこともよくニュース等で見ます。それから農業も大変、お米も大変な状況、そして酪農、畜産関係もとても大変な状況だというのは、もうしょっちゅう、しょっちゅう目にするんですけども、消費者である私たちは、やっぱりいつも安全でおいしいものを食べたいという気持ちはあるんですよ。価格はそこそこ安定していて。</p> <p>ただ、今みたいに原油の価格が上がれば皆、物価が上がるのは仕方がないんだなというのは受け入れるんですけども。そして、</p>

発言者	議 事 内 容
	<p>応援する気持ちはあるんだけど、いつも思っているんですが、ただ、私はこの場にいながらなかなかお魚を上手にお料理できない、すいません。私は大阪出身なので、まずお魚の種類が全然違うんですね、よく知っているお魚の種類が。こっちに来てから珍しいなど、もうこっちに来てから15年経つので結構長いんですけども、それでも普段、小さい頃から食べていない魚はなかなか手が出ないし食べ方もよく分からない。いろんなところで紹介もされているんでしょうけれども、やっぱりでもなかなか手が出ない。だから自分の子どもにも青森県の魚を食べさせられていないのが実際なんです。</p> <p>このように、とてもおいしそうなお料理の写真があるんですが、とても私にはこれができなくて、もし、これを子どもとか家族に食べさせようというのであれば、どこかのお店に行くか、いろんな青森県の中でも民宿みたいところで良心的な価格で食べさせてもらえるところがあるので、そういうところに行って食べるのがいいのかなと。</p> <p>やっぱり今、グルメブームもあってテレビをつければしょっちゅうタレントさんがおいしいものを食べている。そんな中でもやっぱりすごくおいしいと言っているのは、わあ、いいなとすごく思うのは魚介類だと思うんですね。やっぱり珍しさも手伝って。お肉というのはわりと何処でも手に入るんだけど、魚はその場でしか手に入らない。そして調理の仕方がそれぞれ特殊だったりするので、そこに行かなきゃ食べられなかったりする。そういうのをとてもいいなと思うので、そういうブームに上手に乗っかっていければいいのかなという感想です。</p> <p>以上です。</p>
(西崎会長)	<p>どうもありがとうございます。 続いて川村さん。</p>
(川村委員)	<p>八戸の川村です。トロールの組合長として御意見を申し上げます。</p> <p>今、八戸の小中野第2市場の隣に県有地で太洋水産の跡地があるんですけど、ここの建物も、もう何十年もそのまま、屋根がもう半分以上無くなって、我々が水揚げをする時も風が吹くとトタンが飛んできたり、非常に危険なわけです。これ、県有地で金網は張っていますけれども、何か再利用できる、そういうもの</p>



発言者	議 事 内 容
(西崎会長)	<p>を造れないものかと、いつもそう思っているんですけども。なかなか見た目も良くないし、もうカラスの巣みたいになっているような状況です。何とか県の方もその辺を理解してもらって、あそこに何か再開発できるプラントみたいなものを造ってもらいたいということを望んでおります。</p> <p>以上です。</p> <p>この件については後ほど県の方にまたお伺いをしたいと思います。</p> <p>それでは久保さん、よろしくどうぞ。</p>
(久保委員)	<p>よく、青森県の良さを青森県民が知らないということを言われるわけなんですけれども、水産業に関しましてはこのお魚自慢という冊子とか、あるいはお魚キッズとか、そういうことで青森県の良さを県民に知らせていくということがありますので、これは大変いい試みだと評価しております。</p> <p>これ以外にもっと沢山いいところもあると思うんですが、実は産業技術センターの中に水産物関係の様々な研究所がありまして、そこの活動とか業績を拝見する機会がありました。そうしましたら、大変品質を良くすることとか、それから鮮度を保ちながら流通をすることとか、加工品、あるいは販売まで含めて大変いい研究がなされておりました、プラス、特に素晴らしいと思うことは、将来食糧難になりつつありますが、大変そういう自給率が低い中で大変それに対応できるような漁業のやり方を研究しておりましたり、あるいは廃棄物、捨てるところをいろんな商品にしていくと、こういうふうな技術面の優位性というものをもっと県民が知って、それでやっぱりいいところだと、そういうふうなアピールを広くしていくことも必要だなということを感じました。</p> <p>それからもう1つは、漁場の整備ということで、藻場ですか、魚の棲む環境とか漁港のこともありましたけれども、大変事業費が掛かって、それでそれをやることによってすぐに成果というのが現れないと思うんですけども、長い目で見た時に、やっぱりそういうことというのは今から整理しておくことが将来的にも安定した事業になると思いますし、それから漁港が様々な流通のシステムとか、すぐ産地まで漁獲したものをそれぞれの販路にすぐ乗せられるとか、そういうシステムがあることによって、やはりいろんなところからそのシステムを利用して、そこも活用される</p>

発言者	議 事 内 容
(西崎会長)	<p>こともあるのではないかなと思っております。そのあたりが大変重要だなということです。</p> <p>あまり切羽詰まったところじゃない脳天気な回答で大変申し訳ありませんけれども、以上でございます。</p> <p>漁場の費用対効果というのは、これまた長い目で見なければ、その点もまた後で。</p> <p>すいません、後藤さん、お願いします。</p>
(後藤委員)	<p>漁青連の会長をしております、後藤と言います。よろしく願いします。</p> <p>漁青連という名前のおり、漁業青年連絡協議会の方で、青年部の方の代表なものですから、若くはないんですけれども若い人の目線からちょっとお願いをしたいんですけれども。</p> <p>どうしても未だに浜の方には後継者というものがなかなか、生活ができないというか、他の方が、都会の方が魅力があるというのか、様々な考え方があるんですけれど、なかなか若者がいないと。まあ、いないだけでも浜の方で活躍をする、一生懸命やっている若者はたくさんいます。私は平内町なんですけれども、平内町にもたくさんいるんですけれども。</p> <p>昔はそこの町、村で若者達が集まって何かの楽しみがあったわけですよ。青年活動をやりながら演劇部的な芸能発表をやるとか、あるいはスポーツをやるとか、野球大会、あるいは綱引き大会、いろんなイベント等をやっていたんですけれども、最近は無くなってきつつあると、無くなってしまったと。その1つの原因としては、やはり他に楽しみが増えたということもあるんですけれども、平内のことなんですけれども、平内の組合長がいる前でちょっと言いにくいなんですけれども、どうしても組合からの助成が少なくなる、あるいは町からの助成が少なくなる。そのために若者達は自腹を切って何かをやる。ただ、自腹を切ることには、やはり後継者ですのである程度の資金しかない。と、なかなか仲間を集めて思い切ったこともできない。かといって同じ考えの仲間がじゃあ多くいるかと言えばそうでもない、内気な若者もたくさんいるものですから、外に出してあげたいけれどもなかなか資金的なものがないということで、そういう助成とか支援とかをお願いしたいなと思います。</p> <p>私も未来塾に昨年、参加させてもらいまして、12～13回の</p>

発言者	議 事 内 容
	<p>講演に参加させていただいたんですけれども、大変参考になった          思いがあります。ただ、去年の未来塾に参加をして、中には友達          になった人もいます。でも、去年で終わりました。というのは、も          う未来塾に参加した方というのは今後会うことはなかなか自分達          の力では会えないんですよね。連絡先を交換した人はいますけれ          ども、皆さんと交換するわけにもいかなかったし。そこで、こう          いう未来塾という素晴らしいものが、講演とか勉強会があります          ので、地域の後継者を創る、あるいは組合と地域の将来の役をや          るような方々を、県とか、あるいは組合等の力でもう一度そうい          う勉強会に参加したい人は年に1回とか2回集まるような何か行          事があれば大変助かるなというのを感じました。</p> <p>以上です。</p>
(西崎会長)	<p>どうもありがとうございます。          次に佐藤委員、お願いします。</p>
(佐藤委員)	<p>どうも、はじめまして、県の女性協の佐藤でございます。熊谷          会長の後で大変恐縮なんですけれど、頑張りますのでよろしくお          願いします。</p> <p>女性協としては、先日ちょっと ViC・ウーマンの方達とかと交          流をする会合があったんですけれど、その時に感じたことなんで          すけれども、女性協、各女性部さん達の活動報告がその時にあっ          たんですけれども、私たち漁協の女性部自体が各々の女性部の活          動を初めて知ったような感じのところもあるので、これを機会に          各市町村に水産関係とか漁協とか女性部さんとかが参加するイベ          ント等日程が決まっているものがあれば、わざわざ出掛けていく          のではなくて、各市町村とか漁協さんでどういうふうな活動をし          て、女性部さんもその中でどんな活動をしているのか見れるので、          そういう日程表とかがあればわざわざ出掛けていなくても近く          まで行った時に、じゃあ今日はここでこんなイベントがあるんだ、          じゃあ他の女性部さんの活動を見てみようかって、そういう機会          があればいいかなというのを今回は感じました。</p> <p>隣に青年部の部長さんがいらしたんですけれども、女性部も同          じで、若手の女性部員が減少しています。やっぱり旦那さんが漁          業が好きで漁業に魅力を感じても、生活ができなければやっぱり          若い人は漁業に定着しないと思うので、旦那さんの漁業と一緒に          若い奥さん達も働ける場所、加工場とか、そういうのができてい</p>

発言者	議 事 内 容
	<p>けばまた一緒に漁業に定着していけるのかなと、私の希望ですけど、そういう感じを受けました。</p> <p>さっき、小泊ですけども、小野町長もおっしゃったんですけども、うちの方は活ハマクラブというのを若い人達が持ち上げて、とにかくメバルを知ってもらおうということで、網外しとかをやっているんですけども、「参加者のお土産にホッケの生干しとかを作って」とか、「試食の刺身とじゃっば汁を作って」という感じで、漁協の隣の加工所にいるものですから、そういうふうに若い人達が頼みに来るので、それはそれで私たちも協力できるところはしていこうと思っています。</p> <p>今、さっき消費者の方がお話ししたんですけど、魚の調理、食べたいけれども調理ができない、そういうことをおっしゃっていたので、下準備とかをどういうふうに上手にやっておいしく調理できない方にも食べてもらえばいいか、そういうことも工夫していかなければいけないのかなと感じました。</p> <p>以上です。</p>
(西崎会長)	<p>ありがとうございます。</p> <p>続いて塩谷さん。</p>
(塩谷委員)	<p>資料の4以外でも、何でもいいということですので。</p> <p>私は流通業界からただ一人、今日この席に参加させていただいております。普段は中央卸売市場の方で水産物の卸売をやっているわけですけども。</p> <p>今朝、大阪のライフコーポレーションさんが大阪の市場の方と一緒にいらっしやいまして、青森の魚を仕入れにいらっしやっているわけです。近年、非常に全国から有名なスーパーマーケットさん、それからホテルチェーンの業務筋の方々、それから料理屋さんとか、青森の水産物に魅力を感じて、仕入れたいということのでいらっしやる機会が非常に増えてまいりました。</p> <p>その1つの理由としては、海の状況が変わってきたということがあります。温暖化になってきている。全国各地で、従来から獲れていた天然魚の漁獲が少なくなっている。それで他県にその減少分を求めているいろいろ探して歩くといったようなことがあるかと思えます。</p> <p>浜のマネージャー塾とか未来塾とかでお話をさせていただく機会があるんですが、その際、必ず申し上げることは、魚の価値を</p>

発言者	議 事 内 容
(西崎会長)	<p>上げるということは魚価を上げるということにもつながるわけですが、そのためには生配販一体となった取り決めが大事であるということをよく申し上げてまいりました。生配販の生は生産者であり、配は我々流通業者であり、販は小売店さん、あるいは業務筋の方々でございます。いろんな問題があるわけであって、その問題を解決するためには、やはり同じテーブルについて事情をよく話をしながら理解しあって、そうするとそれぞれの知恵を皆さん持っていますから、いろんな解決方法が出てくるんですよ。それで有効な流通の仕組みが出来上がることがあるということです。</p> <p>ですので、県の方にも、できればこういった生配販の三者の出会いといいますか、お見合いのキューピット役といいますか、そういう機会を多く持っていただければ大変いい流通が仕上がるのではないかというふうに考えます。</p> <p>それからあと生産分野の方におきましては、青森県は本当に恵まれた水産資源、特に津軽暖流の張り出しが強くなってきて、前に見た青森県内の研究者の方が書いていた内容では、津軽海峡に津軽暖流という形で対馬暖流の一部が流入してくるわけですよ。その潮の流入量が最近では60%を上回っているという記事を拝見したんですよ。それが事実であれば、もはや津軽暖流というのは対馬暖流の支流ではなくて本流というわけですよ。ですので海の状況も変わってきておりますから、近年、非常に大事な沿岸の栽培漁業をやっぱりこれから強化していくべきだと思っておりますが、その際に海の変化を十分見て、それに見合ったような栽培漁業を進めていけたらというような気がしております。</p> <p>今後について一番心配なのは、県内の漁業生産者の減少が一番心配です。この対策を何とか講じる必要が大きいなと感じております。</p> <p>以上です。</p> <p>はい、若干、私なりに今の話で、漁業者の減少についてはもちろん青森県も随分減少が進んでおります。これは青森県のみならず全国的にもかなり低下しております。従って、青森県でもまた漁業のいろんな組織があります、その組織が圏域ではなかなか難しいということで、今、広域、さらには全国に向けてもう既に検討に入っているわけでありましてね。</p> <p>従って、何としても事業者の減少を防いでいかなければ、今後</p>

発言者	議 事 内 容
(深川委員)	<p>大変なことになるのではないかなど。今現在、漁業に従事している人が、いわゆる戦後の団塊の世代が今、中心になっています。それがあと10年すればかなり減少するという見込みがもうはっきり分かっているんですね。</p> <p>そういうことも含めながら、今後、県としてもいろんなことを考えてやっていかなければならないだろうと。既に考えがあると思いますけれども、後ほどまた県の考え方もお聴きしたいと思います。</p> <p>それでは深川さん、よろしくお願いします。</p> <p>青森県漁業士会を代表して、会長をしています、深川です。</p> <p>27年度のこの推進のプランを見まして、県の施策として漁業者の立場でやってくれている、もう少し欲を言えば、日本海側から言いますと、日本海のさけ早期群造成実証試験とか、そういうものを日本海とは限らずもう少し増やして、そしてそのデータを漁業者なり、そういう人達のところにもう少し周知していただきたいということですよ。</p> <p>それから、この中でまた太平洋側にいきますと、八戸前沖サバのブランド化、これはもう八戸市でもたくさんやっています。私の方でも食総研の方と今、一生懸命サバを刺身で食べるのもお手伝いをさせていただいていますけれども、そういうふうなのも含めて県の方々にもっと力を入れて、まあやるのがいっぱいあって予算配分ということになるんでしょうけれども、そのこのところの選択、なかなか難しいとは思いますが、しっかり進めていただきたいなと思っていました。</p> <p>また、未来塾の話ですが、私の方の県の漁業士になる方も未来塾に要望を出して参加できる方も限られているというか少ない状況にあるものですから、未来塾生や若い人達に対して、私が漁業士になった頃は県の応援をいただいて海外研修というようなものがありまして、それを今、県内漁業士175名いるわけですけれども、その研修を受けてきた方々が、大方の方であると思うんですけども、海外研修のようなのを復活させていただいて、それに参加させながら、若い漁業者を増やしていくという、そういう取組をぜひ、以前のように大きなボリュームじゃなくてもいいですけども進めていただきたいなと思ってます。これは漁業士会の会合をするたびに先輩漁業士の方々もそういう話も出ますし、また若い人が入ってこないというのは、その入口のところも</p>

発言者	議 事 内 容
	<p>あると思いますので、ぜひ、海外じゃなくても国内研修でも良いので応援しながらやってもらいたいなと思っています。</p> <p>それから、これは私の方のことで言えば、この漁場の件ですけれども、26年度、ここにも書いてある3地区に魚礁を入れてやっていただいております。そして27年も継続事業ということで、八戸市南浜漁協に6部会あるんですけれども、3部会は済みましたので、あと残りの3部会に引き続きお願いをしたいと、お願いはもう1つありますけれども、またお願いをして、それについては下北の方からウニをいただいてうちの方に放流をして、藻場も造ってウニの生産を上げると、ウニ・アワビの生産を上げるという取組もしております。それに伴って水産事務所の方々等に活躍をいただいてその実証実験もしていますので、ぜひそれも含めて御支援のお願いをしたいということです。</p> <p>さっき川村委員さんから話がありましたけれども、市場の件、これはここで話をするものではないのかもしれないけれども、早めに八戸の市場の改善、いろんな議論がありますけれども、それに取り組んでいただいて、沿岸漁業が元気のあるような、やりがいのあるような市場にしていきたい、そういうふうに思っています。</p> <p>いっぱいまだありますけれども、また別の機会にでも話をさせていたきたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
(西崎会長)	<p>ありがとうございます。 野坂委員さん。</p>
(野坂委員)	<p>野辺地町漁協女性部の野坂です。</p> <p>何か、お魚自慢ということは、頭の付いた内臓の入ったのがお魚みたいに皆さんが思っていますけれども、ホタテのお魚自慢、去年は知事さんもいらして全国に、名前を言っているかどうか、大手のスーパーさん全店に発送しています。朝獲りのホタテということで。これはお魚自慢のホームページに載って、今年の春も九州の方まで行って、西鉄さんの方に注文をもらってきたと組合長も喜んでいましたので。</p> <p>ホタテだったら、私達、現場で毎日船に乗っていてホタテをいじっていますけれども、あまり食べないので娘に叱られました。「お母さん、ホタテは最高だから食べろ」って。</p> <p>今年、女性部で取り組んだのがホタテの味噌というのを作りま</p>

発言者	議 事 内 容
	<p>した。今現在は許可ももらって全部届け出してイベントなどでは売っていますけれど、これから大きく出すには、結構ホタテを使うので、そういうこととか考えてはいますけれども。県の指導の下、ホタテは今、順調に発送できています。もう酸素が入っていくものだから、どこまで行っても元気なまま、口を開いたところに手を入れると挟まれたってビックリしているくらい、行っています。</p> <p>あとは健康でなければホタテも魚も獲れないということで、健診11年目です。町とタイアップして漁師さんが健診。明日、ちょうど健診日なんですけれども、漁業者は夫婦で増進センターに行って健診を受けて、健康でおいしい魚を発送しようということから、私達女性部が最初に取り組んで11年目になります。</p> <p>あとは、先ほども言っていましたけれども、後継者は、うちも皆、国家公務員になっているのでいないんですけれど、たまたま町内に、どこに行ってもダメなんだけれど、漁師はやってもいいという人が出ましたので、給料をやりながら今、指導をしています。これは組合員からも、「後継者、最高だね」と言うんですけど、やっぱり給料をやっても別に負担にはならないんですけれど、そういう取組も県の方も考えて、少しだけでも、私達にでなくても本人に、県からこういう助成があったんだよというとまた励みにもなりますので、何か考えてもらいたいなと思っています。</p> <p>あとは、先ほど言いましたホタテ味噌の方ですけど、とっても町内だけでも評判が良くて、「部長、味噌、味噌」と、こう言うくらい評判がいいです。皆さんも機会があったらどうぞ召し上がってください。</p> <p>いっぱいありますけれど、以上です。</p>
(西崎会長)	<p>ありがとうございます。 では福島委員さん、どうぞ。</p>
(福島委員)	<p>青森県漁船保険組合長を務めております、福島でございます。漁船保険の組合長ですけども、本業は巻き網でサバを獲るのが本業でございます、今日はたまたま、この8ページに「八戸前沖さばブランド力向上復興促進事業」と銘打っておりますので、これについてちょっと触れていきたいと思っております。</p> <p>八戸前沖さばというのはそんなに古い歴史があるわけじゃなくて、まだ新しいんですけども、たまたま、ちょうど一月前に地</p>



発言者	議 事 内 容
	<p>元の市長共々、アメリカのシアトルにまいりまして、上島屋さんという名前のスーパーで、そこの一角をお借りしまして八戸の物産を販売した中に、この八戸前沖さばという幟を立てましてやって、私も行ったものですから半纏を着せられまして、一緒に、ちょっとの間でしたけれども販売に携わりました。その中で、まず第1番にはアメリカとヨーロッパはちょっと違いがあるようですが、HACCPというので、この衛生管理システムを取り入れないと日本からそう簡単には水産物は持って行かれないということですね。そういう中にありまして、まず私がさっき自分で獲る商売だと言いましたが、獲る私の船はHACCPにはなっておりません。これ、誰がHACCPにするんだといったら、県の方でそういうことをする組織があるんだというふうに聞いておりますけれども、具体的にどこか分かりません。それで、じゃあさっそくHACCPを取ってやらなきゃダメだろうと。今、市場の川村社長も来ていますけれども、八戸市が立ち上げたA棟はHACCPの資格を取って、しかもこれはヨーロッパ、EUのHACCPだそうです。そこで水揚げをするわけですが、肝心の私の船がHACCPになっていないものですから、水揚げを受けた方のA棟はHACCPなんです、そこから搬入された工場の中には、まだEUは取っていないところがあるのかな、アメリカは取っているところがあるようです。そういう中で、要するに一貫通にはなっていないと、途中で留まっているというようなことでは、せっかくこの八戸前沖さばをブランドで売り出そうと言っても、どこかでつまづくのではないかなと、こういうふうに私は考えておりますので、ぜひ、これはうちの船に限らず、船はたくさんございまして、HACCPを取れるような対応をしている船には、即、県は、何か青森県が担当だそうです、窓口だと聞いていたので、やっていただきたいということをお願いを申し上げたいと思います。</p> <p>この間、行った上島屋さんというスーパーでは、ほんの少しですけれどもサバの販売に半纏を着て携わってみたら非常に好評で、それで英語がよく分からないものですから、買いに来た現地の方から、どうしてこれを買われるんですかということを通訳を介して聞いたら、実は2日、3日前にも買って食べたなら非常においしかったと。今まで買って食べたサバとは全くサバの味が違うというふうなことを言っているというから、じゃあ何のサバを食べたんですかと聞いたら、まあここには誰もいないから言うけれ</p>

発言者	議 事 内 容
(西崎会長)	<p>ども、ノルウェーのサバを食べたと。</p> <p>かつては八戸の港でもサバが不漁になった時にはノルウェーから原料を仕込んでメメサバなどを作った時代も、今から数十年前にはあったんですが、今は全然させません。</p> <p>そういうふうなことで、八戸沖で漁獲される前沖のサバというのは非常に好評を博しております。そういう中であって、県がこれにまた力を入れるということは非常に良いことだなど、このように思っておりますので、さっきも申しましたが、くどいようですが、獲ってくる船もHACCPの対応が出来るように、即、県の方で進めていただきたいということを申し上げて私の意見としたいと思います。</p> <p>よろしくをお願いします。</p> <p>後で、また県の考え方を。 それでは三津谷委員さん、どうぞ。</p>
(三津谷委員)	<p>いろいろあるんだけど。ただ、皆さんのお話、漁業の担い手、担い手というのはやっぱり所得がなければ誰も考えません。そういうことで、例えば事例を挙げますけれども、平内町漁協組合長として申し上げますと、ホタテ養殖を今、やっているわけですが、実は平内も全国同様、ホタテの担い手が随分今、当初、私、昭和45年の時に合併をして、そこの理事になったり、その時は合併して、1,200名ほどの組合員、800名ほどホタテをやっていたのですが、今は500名ちょっと。組合員も1,000名に減りました。それは年いった人がおり、それが主な原因ですが、じゃあどうすればいいかと、これは町とも相談をしなければダメだ。平内町の一番栄えたところで大体40軒ぐらい漁業者の家が住んでいないわけですよ。</p> <p>そこで担い手を探するためには、都会からも担い手募集をする、やはり地方創生ですね、それと絡み合せて、例えば、漁業を辞める人が家を譲る、そこは組合も町も県も協力して説得して、ただ突然として家を放置するのではなくて、都会からの担い手に提供する。これはホタテのみならず青森県全体的な話だと思います。</p> <p>そういうことで、地方創生に絡めた事業展開に結びつけばなんと、こういう思いを常々思っているわけです。それから青森県全体的の話ですが、獲る漁業は獲る漁業でいいんですが、沿岸漁業は皆さん御承知のように非常に寂れてきたわけです。そこで何に取</p>

発言者	議 事 内 容
	<p>り組ませるのか、例えば陸奥湾のナマコは大きな漁業となってきましたが、じゃあ太平洋、日本海にどういうものを漁業定着としてさせるのか。そういうことを県には浜の活性化、利用しながら指導をしていただきたい。そうでなければ青森県の漁業は衰退の一途を辿りますよ。やはり、そういうことを命がけでこれやっ ていかなければ。</p> <p>あともう1つ、そういう状況で、全体的に青森県は漁協の合併が進んでおりません。これを進めるにはやはり県の支援がなければ到底できませんので、そういう点もまたよく御相談を申し上げながら、今の担い手づくりもじっくり県と相談をして再生に向けていきたいと思っていますので、よろしく御指導を賜わりたくお願い申し上げます。</p> <p>以上です。</p>
(西崎会長)	<p>ありがとうございます。 吉井委員さん。</p>
(吉井委員)	<p>八戸市水産科学館マリエント、吉井と申します。よろしくお願 いします。</p> <p>昨年も参加させていただいて、27年度事業の取組についてな どの資料を拝見しますと、非常に展示をするに当たって非常に役 に立つというか、重要な書類だなというふうについていつも感じていま す。</p> <p>それは、私どもは水族館ではなくて水産科学館なので、展示の 仕方はちょっと水族館とは違います。そしてまた青森県はつくり 育てる漁業ということで漁業への取組を打ち出しておりますので、私どもはそういうお話を伺いながら、探検クラブという子ども のクラブがありまして新井田川漁協さんにお世話になってサケ を採取して採卵して、その様子を見学、そして飼育して放流する などの取組をしております。</p> <p>私はいつも、この「つくり育てる漁業」とか「未来につなぐ資 源管理」などの資料を拝見しますと、これを基に水産科学館とし て多くの子ども達にこの水産業への青森県市町村が取り組んでい ること、そして産業技術センターの研究成果などを踏まえた展示 をするために、非常に勉強になっているというのが事実でございます。</p> <p>今後とも、そういう展示を通して子ども達が故郷の良さを知る</p>

発言者	議 事 内 容
	<p>大きな機会を与えられることができると思っています。</p> <p>あと、これは余談ですけども、先ほどホタテ味噌の話をされましたけれども、先日、三沢の方とお会いした時に、三沢はホッキが有名で、ホッキ味噌というのが非常においしいというふうに自慢してお話をされていたんですけども、多分、先ほどの消費者の方も言っていましたけれども、そういうレシピとかそういうものがあると、きっと消費者は非常に嬉しく購入するのではないかなと思いました。よろしくお願ひします。</p>
(西崎会長)	<p>全委員さんからお聴きいたしました。それに対して簡潔に県の方から回答というか考え方を。</p>
(水産振興課)	<p>水産振興課に所管する部分について回答いたします。</p> <p>まず後藤委員の浜のマネージャーの卒業生が会う機会を設けられないかということで、これについては私どももせっかく育成したマネージャーについては、将来、皆さんが活用していくものがないかなということで、現在検討を進めています。</p> <p>それから福島委員のEUの登録船。これについては私ども、船のHACCP登録は県の所管であります。それで、ちょっと私の記憶では福島委員の最初の船は既に登録されていたかと思っていました。</p>
(福島委員)	<p>あと2艘ある。</p>
(水産振興課)	<p>残りがあるということで、その残っている部分については、なぜ登録ができていないのかということについて確認をしたいと思っています。</p> <p>それから三津谷委員の、漁協の合併には県の支援が必要だということで、これについても今年度もちょっと予算化をしていますけれども、もう少ししっかりやっていきたいと思っていました。</p> <p>もう1点、深川委員、これもやはり漁業士の海外派遣と言いますか、なかなか海外に出すだけの予算が難しいので、今考えているのは国内で漁業士の方、浜のマネージャーでもよろしいんですけども、水産物のマーケティングなんかをやってもらうということで、そういう事業を今、検討しております。</p> <p>それから最後に野坂委員、近所の方を漁業者として今、雇用されているということで、これについては国の事業がもしかしたら</p>

発言者	議 事 内 容
(福島委員)	<p>うまく使えるかもしれません。後ほどちょっと調べて御紹介をしたいと思います。</p> <p>ウチワの件で気がついたのは、青森県のお魚自慢の中に無いのがあるんです。私の獲っているイワシ。何でハズされたのかなど、何か意味があるのかなど。説明してください。</p>
(漁港漁場整備課)	<p>先に漁港漁場整備課の方から関連するものをお答えしたいと思います。</p> <p>まず、川村委員から要望がありましたけれども、これは県においても老朽化の状況というのは十分認識しております。強風とかあれば非常に危険だということもありますので、その対策を早急に検討しているところでございます。</p> <p>あと、久保委員の方から話がありました、漁場整備の効果の関係ですけれども、こちらは一応、例えば1年目に魚礁、ブロックなどを設置しますよね。そうするとその設置が終わった次の年からは毎年、例えば魚の集まり具合だとか、あるいは藻場であれば繁茂状況とか、そういうことは常に調査をしております。それを反映して、いろいろ調査の上、次の年、あるいは今後の漁場整備というものに対して反映するように心掛けているところでございます。</p> <p>あと、深川委員の方から御要望のありました、三八区域の漁場の件ですけれども、これは来年度、何とかできないかということで国の方にはまた新たに漁場の整備というものを要求はしているところでございますけれども、県としても出来る限り早く着手したいと考えております。</p>
(総合販売戦略課)	<p>1点だけ、すいません。塩谷委員から、先ほど生配販の関係でございまして、この関係につきましては、農商工連携のコラボマーケットということをこのところ数年やっております、今年もまた9月にやることになっております。その中でセミナーの後は交流会、生産者と加工業者、それと流通販売の方々の交流会を持つことになっておりますので、こちらの方で対応していきたいなと考えていますので、よろしく願いいたします。</p>
(水産振興課)	<p>ウチワの件でマイワシが抜けていました。マイワシは、かつて青森県では青森県の漁獲量のほぼ8割くらいを占めて43万ト</p>

発言者	議 事 内 容
(西崎会長)	<p>ン、ものすごい量を獲っていました。近年はまたちょっとずつ増えてきて、1万トンぐらいということで回復の兆しを見せております。</p> <p>ということで、次回に作る時はきちっと入れるようにいたします。</p> <p>委員の皆さんが、せっかくに1年に1回か2回のこの水産振興審議会、本当にちょっと時間が短くて皆さんにもう少し、委員同士で話し合うことができればなと思うのですが。</p> <p>今日、八戸の方で三社大祭ということで、一応3時ということで予定しておりますので、大変恐縮ですが。</p>
(赤石委員)	<p>先ほど一言だけ言ったんだけど。まず、今日、この場をお借りしまして、青森県の漁協がどうしなければならないか。やはり、これから時間が掛かっても青森県は県知事の許可を全部、全ての漁業を県知事の許可にならないのか。岩手県は岩手県の県知事の許可にならないか。それを4～5年前に長官に言ったことがある、まあ、なるかならないかは別にして。</p> <p>ただ、皆さんも御承知のとおり新聞記事を見れば、私達、一昨日、本川長官と色々な話をしました。しゃべることがたくさんあるんだけど、今日はそんなにしゃべれないなど。</p> <p>それから県側ができるのは、今現在太平洋の2, 700m沖合で獲っている。7～8年前に5, 000mまで延長してもよろしいよということがあったから、検討していただければなと思います。やはり、後継者を創るために沿岸漁業の操業区域をもう少し広くして、もっと魚の獲れるようにするのが必要ではないかなと思っております。</p>
(西崎会長)	<p>まだまだ皆さんから意見を出したい方がいっぱいあると思います。ぜひ事務局の方にお電話なりファックスなりメールなりを、どうぞ寄せていただければなと思います。長時間とは言えない1時間半の会議で、大変私の粗末な司会で皆さんの意見を引き出せなかったことが多々あると思いますが、まず御協力をいただきまして本当にありがとうございます。</p> <p>以上をもって、私、議長の任を終らせていただきます。</p>
(司 会)	<p>西崎会長、どうもありがとうございました。</p>

発言者	議 事 内 容
(山内水産局長)	<p>それでは閉会にあたりまして、山内水産局長から御挨拶を申し上げます。</p> <p>閉会にあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は長時間にわたり熱心な御審議、また御提言をいただきまして、誠にありがとうございます。皆さんの御理解の中で、浜の活力再生ということで御意見をいただき、皆さんの思い、いろんなことを聞かせていただきました。浜の元気のためには、皆さんの御意見はもちろんでございますが、活ハマクラブのような浜の若い人達の活動があったり、それからメバル膳のような御当地グルメ、そういうことで浜を元気にしていくと、上げていくと、いろんな御意見がございました。</p> <p>また最後、吉井委員の子ども探偵クラブのお話がございました。小さい頃からやはりお魚、水産業に興味を持っていただいて、そのまま大きくなって、浜の元気につながっていければと、そういう思いを感じさせていただきました。ありがとうございました。</p> <p>全ての皆さんの御意見、御提言に直接応えることはできませんけれども、そのような御意見を今後始まる、来年度のいろんな水産関係の事業に反映させるよう検討していきたいと考えてございました。</p> <p>結びに、委員の皆さんにおかれましては、今後ともそれぞれのお立場から引き続き県政全般にわたって御意見、それから御指導をいただきますようお願い申し上げます。閉会の御挨拶といたします。</p> <p>本日はまことにありがとうございました。</p>
(司 会)	<p>これをもちまして第64回青森県水産振興審議会を終了いたします。委員の皆様、長時間にわたり誠にありがとうございました。</p>